

コメダ珈琲で食べることになり、好きなものを頼んで食べて、チームの雰囲気もだんだん良くなってきた気がした。チームは、吉丸さんが「Google Map」を駆使して先導してくださり、今村さんがチームを盛り上げてくださってとても楽しく歩くことができた。何駅か進んだところワードウルフをしようと今村さんが提案されて、始めることになった。ウルフを探すためにチームの会話も増えて、疲れも忘れてわいわい楽しく歩くことができた。2回目、3回目のルーレットが来た。先輩が後輩をお姫様抱っことおんぶが出て、後輩は先輩の背中や腕の中で少しばかりの休息をとり体力回復。4回目のルーレットは、動画撮影でしょぼパルクールに止まった。しょぼパルクールとは何か研究に研究を重ね、近くの公園で撮影に臨む。撮影で、吉丸さんの動画がおもしろくて全員で爆笑するほどのクオリティだった。こんなところで先輩のすごさを痛感するなんて…。お昼は上野の定食屋でそれぞれの食べたいものを食べた。量が多くて東京で久しぶりに大満足できる食事ができたような気分になった。5回目は、スタバで全員大喜び。スペシャルなドリンクを飲み、また体力回復。6回目は、佐賀弁縛りだったが今村さん

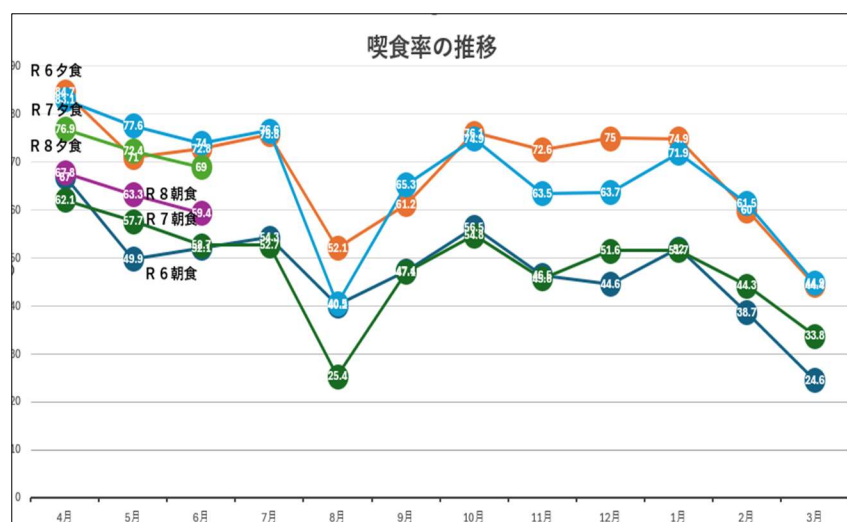


を筆頭に、自分以外の人たちの佐賀弁がすごすぎて、自分は全く喋れず終わってしまった。佐賀弁を意図的に出せと言われると普通に難しい。そんななか喋っていた人はすごいと思った。7回目は、今村さんが寮生の物真似で自分たちを笑わせてくださった。その後は、順調に道を進んでいたが、高輪ゲートウェイ直前で重松さんの体調不良があったものの、皆でサポート。その分の遅れは走ることで取り戻した。おそらく、品川駅から大崎駅までの区間の最速記録は自分たちのチームだったと思っている。そのくらい全力で走り切った。最後、渋谷駅に着いた時の清々しさは忘れない。

私はこの山手線で、徐々にみんなが打ち解けあい、チームが一つになって、きついことを乗り越えるすばらしさを体験することができた。先輩方は皆さん優しく、寄り添ってくださったおかげで最後まで歩きぬくことができたし、人と協力することの重要性も身をもって感じた。来年も開催されたら参加しようと思う。

食は人を作り、食事を共にすることは関係を密にする ー寮食を摂ろうー

寮生活を選ぶにあたって「食事の確保」をその理由の一つに挙げる人は多いでしょう。一人暮らしで忙しい学生生活の中、栄養バランスにとんだ食事は、なによりも勉強やサークル活動に安心して注力させてくれます。



保護者の方にとっても住居費の安さに加えて、食事の確実な提供は大きな安心感につながっていると思います。

東京私大教連の調査によると、首都圏の私学に入学した学生の家賃平均は 71,800 円。下宿生の毎月の仕送り平均が 91,600 円。仕送り額から家賃を引いて 30 で割った 1 日当たりの生活費は 660 円。これでは

生活ができないので、学生はアルバイトに向かわざるをえない。それが負担となり学業がおろそかになる者も…。

松濤学舎は育英目的で設立・運営しており、一つには安価な寮費及び食費という形で奨学支援を行っています。しかし残念なことに自己都合で食事をキャンセルする学生もいるようです。

この 3 年間の喫食率の推移を見てみると R8 夕食（緑）は過去最低ですが、R8 朝食（紫）はこの 3 年間で一番喫食率が高いという特徴が見られます。新 1 年生がしっかり朝ごはんを食べて 1 日をスタートさせ

ている傾向があるようです。

「食」は“個人的な営み”であると同時に、寮食という“公の営み”でもあります。自己都合に偏ることなく、自身の行動が寮全体の運営にも関わっているという認識をもってほしいと思います。今年は特に朝食・夕食併せて最低でも 50%の喫食率を切らないようにお願いしています。

また、何よりも人の体は食べるもので出来ています。長期的な視点で自分の食を見とおしてみましょう。加えて、食堂で人と一緒に食事を摂ることはそれだけで人間関係を豊かなものにしてくれます。

「孤食」「個食」「固食」「粉食」「小食」「濃食」「子食」「戸食」「虚食」という9つの「こ食」。現代の食卓の問題を端的に表したこれらの言葉が何を意味しているのか想像し、自身の食事の在り方をあらためて考えてみてください。

〔喫食のメリット〕

【個人】①生活リズムの維持

②身体 の健康

③精神 の安定

④寮の強み(保護者の期待)

【寮】①食材の適正な確保

②食品ロスの縮減

③委託費の健全な支出

④県からの助成金のアップ

私はこんな所に行ってきた ー経験を共有するー

舎生それぞれは、目的や目標をもって様々なことにチャレンジしています。

ところで、県人寮のよさの一つは「経験を共有できること」です。たとえうまくいかなかったことがあったとしても、同郷の親近感により、それを正面から受け止めて癒してくれるからです。これこそがスポーツ寮のような競争の原理ではなく、支え合い・励まし合いの原理なのです。これこそが根源的な県人寮のよさと言えるでしょう。

ここでは 2 人の経験を披露してもらいました。この背景には当然よかったことだけではなく、うまくいかなかったこともあったと思います。そういう経験談を含めて話題にし、共感してほしいと思います。

トルコへの思い

東嶋 海

私は中学 2 年生の英語の授業で学んだ「エルトゥール号遭難事件」をきっかけに、トルコという国に興味を持った。高校 2 年生になると、その魅力をさらに深く知りたいと思うようになり、トルコの歴史や文化について学ぶとともに、独学でトルコ語の勉強も始めた。また、「アジア+G7・ハイスクール・サミット」に参加し、人生で初めてトルコ人高校生と交流した。そこで出会った友人とは現在も頻繁に連絡を取り合っており、私にとってかけがえない存在となっている。

その経験から、大学では東京外国語大学でトルコ語を専攻することを決意した。大学 1 年次の夏には、トルコの首都アンカラに約 1 か月間留学し、トルコ語運用能力の向上に努めた。また、高校時代に出会った友人と現地で再会し、ともにイスタンブールを旅行するなど、忘れられない思い出を作ることができた。

さらに今回、舎監さんのご紹介により葉隠フォーラムに参加し、トルコで遺跡発掘調査を行っておられるアナトリア考古学研究所所長の 松村公仁 様のお話を伺う機会をいただいた。お話を通じて、トルコが持つ歴史的な魅力を改めて実感するとともに、悠久の歴史の中で営まれてきた人類の暮らしや文化の奥深さにも強く心を動かされた。特に印象的だったのは、松村様や前所長の 大村幸弘 様らが長年取り組まれてきた遺跡発掘調査が、トルコの人々から深く感謝されているということである。学術研究が歴史の解明に貢献するだけでなく、日本とトルコの友好関係を深める役割も果たしていることを知り、大変感銘を受けた。

今回の経験は、私のトルコへの関心をさらに深める貴重な機会となった。



第 55 回東海大学海外研修航海実習に参加して

森田 麗翔

私は、2月17日(火)～3月20日(金・祝)までの32日間、本学が毎年行っている海外研修航海実習(これからは『航海』と表記する)に参加した。今回、せっかくの機会だからということで皆さんにこの約1ヶ月の間何をしていたのか話していきたい。

まず、この航海には札幌キャンパス・品川キャンパス・伊勢原キャンパス・伊勢原キャンパス・静岡キャンパス・熊

本キャンパス・阿蘇くまもと臨空キャンパスの全国のキャンパスから97人が学部・学科問わず参加した。さらに、12名の先生方・海洋学部海洋理工学科航海学専攻の学生が16人、そして約30人の船員さんが乗船し、150人を超える人数となった。そして、乗船した船は本学の研修・調査・実習を兼ね備えた「望星丸」である。

まず、この航海が始まる前の12月25日(木)～26日(金)の2日間、品川キャンパスでの事前研修に臨んだ。ここでは、船内での役割決めや船内での細かなルールの確認等を泊まりこみで行った。初めましての人が多くとても緊張したが、大学のことや共通の趣味等を話していくうちに自然と仲良くなり、これから始まる航海が楽しみだと思った。

2月15日(日)・2月16日(月)の2日間で直前研修を望星丸で行った。船内での生活に慣れることが目的で、これから1ヶ月共に過ごしていく仲間との共同生活が不安と期待でいっぱいだった。



直前研修を踏んでいよいよ本航海が始まった。最初の寄港地ミクロネシア・ポンペイまで10日間ほどあったが、船酔い等は無く、友達と会話したり、甲板に出て海を見たりと非日常の時間を楽しんだ。ポンペイでは、初日にポンペイ市街を歩き回り、ショッピングや現地の人と会話をしたりした。現地の人と会話をすると、快く話してくれてココナッツを飲ませてくれた。他にも小型船に乗って沖の方へ行き、釣りもした。

次の寄港地パラオでは初日にショッピング、2日目にJICA見学、3日目にシュノーケリングをする予定だったが、2日目に発熱し、ショッピングしかすることができなかった。

最後の寄港地宮古島では、強風の影響で1日遅れの入港となったが、ビーチクリーン活動やレジアート体験を行い、宮古島の方々と交流することができた。

この航海を通じて、共に参加した仲間と仲良くなれたのはもちろん、現地の方々と話していくことで、話す言葉が違っても心は通じ合うのだと感じた。1ヶ月という短い期間ではあったが、一生の思い出に残る最高の経験ができたと思う。この経験ができたことに感謝してこれからの大学生活の糧にしていきたいと思う。

保護者会からのお知らせ

もはや四季ではなく二季になったという言葉も世間では聞こえており、酷暑日という言葉も珍しくはない昨今ですが、保護者会の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

さて、今年は男子6名・女子9名、計15名の新生が入舎し、女子の総数は20名と一層賑やかな学舎になったようです。また、1年からの持ち上がり女子学生が4年となった、いわば完成年度の年でもあり、学舎取組の一層の充実期待しているところです。

こうした中、特に1年生の保護者におかれましては、お子様の生活状況等、大変気になられるところかと思えます。6月には、下村舎監による寮生全員面談があり「時間を守り礼儀もわきまえたしつかりした学生ばかり」との感想をいただいています。舎生の皆さんは大学の講義・演習を中心として充実した学生生活を送っているようです。

ところで、例年、学生自治会活動(寮祭等)補助費として、保護者会において会費二千元を徴収させていただきました。今年度も学生たちの充実した活動に向け、左記のようちよ銀行口座に各自、振り込んでいただきますよう、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

保護者会会長 吉丸雅子
保護者会会計 森田直樹

保護者会費 2,000円

【振込口座】ゆうちょ銀行

名義： shoutougaku

記号： 17450

番号： 17415201

他行から振り込む場合

<https://www.shoutougaku.sya.com/cont12/main.html>

学舎 HP「保護者の皆様へ」を参照



【令和8年度 自治会役員】

寮長	森田麗翔	副寮長	吉丸敦也・金津伊央莉
会計	古賀菜月	書記	伊東由夏
給食	西田晴揮・山田梨愛	美化・生活	諸石大・堤真優
図書	山下祐輝・桑原真子	広報	園田航士
イベント	吉田壮太・七田真愛	ネット	山元麻衣



【令和8年度 保護者会役員】

会長	吉丸 雅子
顧問	今村 肇
会計	森田 直樹
監事	金津 修一



網掛けは参加必須行事です



繼
登
檣

(HP)



SHOUTOU-GAKUSYU
公益財団法人 松濤学園

